



恒例になっている「中国帰国者問題、写真と資料展」が今年も4月18日(火)～20日(木)に岡山市役所1階ロビーで開催されました。

展示は満州における開拓団の歴史や、帰国者の日常生活と抱える問題など多岐にわたりました。小林事務局長が生まれた竜爪開拓団の紹介、中国からの帰国者との交流会や日本語教室、料理教室、校外学習、きりえ教室などがわか

りやすい資料を使って展示されていました。なかでも中国帰国者の老後と介護問題が深刻になってきています。日本語で十分なコミュニケーションがとれない帰国者が安心して老後を送れるような環境づくりが急務です。

今回は第三回中国百科検定の展示もあり、また昨年11月に日中友好協会倉敷支部と岡山支部で中国を訪問した際、私が大森岡山市長の

親書を洛陽市の代表者に手渡した記事も展示されていました。

それにしても、長年にわたり中国帰国者の支援を続けておられる小林事務局長や岡山支部の活動には感心するばかりです。中国脅威論を振りかざす安倍政権の下、アメリカが空母カールビンソンをはじめとする艦隊を朝鮮半島近海に派遣するなか、日中友好運動の重要性がますます



犬飼 繁
大きくなっているように思います。

中国帰国者問題写真と資料展



読字 原田 鏡

No. 828

2017/ 4/25



発行所
日本中国友好協会
〒710-8256 岡山市東区東山1-1-1
TEL:086-272-3010

日中友好協会
岡山支部
〒710-8256 岡山市東区3-8-30
TEL:086-272-3010
郵便番号1100 01250-0-3835

日中友好協会
倉敷支部
〒713-8511 倉敷市連島中央1-8-4 (宮地方)
TEL/FAX:086-6446-2711

第6回「孟子」を読む

滕文公篇 (下の1)

弓田 盛樹

滕文公篇の後半部では、仕官することを望みながらも、諸侯に会おうとしない孟子に対して陳代が疑問を投げかけることから始まります。陳代の疑問に対して、「己をまげて人を正しくした者は、未だかつていない」と2つのたとえ話を引き合いに述べます。

1つ目が、狩場管理人の話。齊の景公が狩猟を行っているときに、旗を振って管理人を呼び寄せようとした。しかし、それは正しい招き方ではなかったため、いくら王に呼び寄せられても動くことはできず、管理人は王の招きに応じなかった。

2つ目は、馭者の話し。晋の趙簡子は、近臣嬖奚が狩りをするために王良を馭者に任命した。1日目は、規定通りに馬車を運転したが、嬖奚は一羽の鳥も射落とせなかった。2日目は、嬖奚に合わせて運転すると瞬時に10羽も射落とすことができた。馭者の王良は、「乗り手の弓の腕が悪いから当たらないのであり、そんな人のために運転したくない」と馭者の役割を辞退した。

狩場管理人や馭者でさえ、道理をまげ礼に反することをしない。ましてや、社会の過ちを正そうとしている自分が世俗に迎合するわけにはいかないという強い意志があるのです。

つづく

手で触れてきり絵に感動して!!

芳田公民館日本語学習の“きり絵教室”

中国古来からの伝統的なきり絵に釘付けになりました。光沢ある色紙をカッターナイフで繊細に人や物の形を切り抜いていく、まさに器用さと根気が不可欠!! 複雑な物は4時間くらい掛かる物も、若いときはもっと早くに…と苦笑いされる黒田さん。さぞ年賀状をきり絵でいただいたものなら一生の宝物になるでしょうね!



日中友好協会岡山支部ホームページ
http://rzhong.biz/
メールアドレス
rzhong86@hotmail.co.jp



おかやまいっぽん一周年記念イベント

「すべては日常の中に！」

4月9日、岡山国際交流センター2階の国際会議場で表記のイベントが、安保法制の廃止と立憲主義の回復を求めるおかやまいっぽんの会（通称：おかやまいっぽんの会）主催で開催されました。

イベントは、正まつて「など」と書いてある交通安全の旗を持って登壇した、大坂圭子お

かやまいっぽん共同代表が、普通のママたちがおかやまいっぽんの運動に参加するようになった経緯について話した、あいさつで始まりました。

臨場感ある報告

第一部は、宮本龍門共同代



左から 榊原さん 大坂さん

表と伊東大輔事務局長が交互にマイクを握り、ボクラのイチネンをみらいに」と題して活動報告を行いました。

内容は、お花やまいっぽんの設立（昨年2月28日）までの経過、その後の取り組み及び衆院選に向けての方針などです。

その中で、4月21日、おかやまいっぽん・野党3党による政策協定調印式＝参院選野党統一候補を誕生させることができた。結果は残念であったが、野党共闘率13.6%で全国第6位となったことなどの成果とともに、準備不足で市民・各野党・候補者が緊密な連携が取れなかった。おかやまいっぽんの活動を県内全域へと広げることができなかった。などが課題として強調されました。

そして、会員の拡大と既存団体との交流、運営体制の見直しや会報発行など、おかやまいっぽんの基礎体力を強化する。などの改善方針が出されました。また、今年中に予想される衆院選では、民主党政権を誕生させた人々となった人々をもう一回、主権者として帰ってきてもらう



講演する坂手さん

ための活動を強めたい」と話しました。

プロジェクトを使ったこれらの報告は、臨場感があり、参加者を引き込みました。

政治を身近に感じてもらいたい

続いて、会の広報班、企画班、政策班及び津山・倉敷地区からの報告がありました。広報班からは三枚のポスター（日常と政治、駅と政治、均衡と政治）について、政治を少しでも身近に感じてもらいたい。と思うて作成したと、そのねらいを話された。

後もおかやまいっぽんと協力しながら各野党及び市民と野党をつなぐのり」のような役割を果たしたいと述べました。

倉敷からは、6人がつながり、変える、リス・ペクトの政治へと書いた横断幕を持って登壇し、県労倉敷、元連合倉敷の役員が、それぞれ四区での野党共闘実現のためにがんばる決意を語りました。なお、倉敷（6月17日）、津山（6月18日）で連続して、山口二郎（市民連合呼びかけ人、法政大学教授）をゲストにイベントを計画しています。

何ごともおもしろく、楽しくを大事に

第二部は、岡山県出身の劇作家・演出家の坂手洋二さんの「演劇と政治」と題する講演です。坂手さんは、人と人が直接会って話すことの大切さとともに、演劇でもそうですが、選挙活動もおもしろく、楽しくを大事にする」ことを熱く語りました。

イベントは、榊原共同代表の閉会の挨拶があり、参加者の記念撮影で終わりました。民主進歩の国会議員（高井、津村、柚木）、共産党の垣内書記長、社民党の宮田県連代表、自由党の姫井代表と四野党からの参加がありました。これに岡山市九条の会などの市民を加えると約1300人が参加しました。

総社から参加した女性は「っぽん」のことがよくわかった。総社でも話し合いを持ちたいと言われました。

その後、5月21日に1000人委員会のメンバーを中心に集まりを持つことになったと連絡がありました。

次に、いっぽん立ち上げから参加している池橋陽子さんの感想を紹介します。

私にできること

4月9日に国際交流センターで行われたおかやまいっぽん一周年記念イベント「すべては日常の中に！」に参加しました。

もう一周年……。私はいっぽんの立ち上げの時期に、安保法制に反対するママとみんなの会」から参加させてもらいました。当時は保育園の迎えの後子供を連れて参加……ということもあり十分関りができないままでしたが、野党統一候補を作ろうというとき、いろいろな考えの方が何とかがいっぽん」になろうと粘り強く話し合っていたことに本当に希望を感じました。参院選を経験してみて、まだ手の届いていない有権者にどうやって政治を身近に感じてもらおうかを模索してきたおかやまいっぽん。今回のイベントのタイトルや活動報告、ポスターのイラスト、劇作家坂手洋二さんの講

演などあらゆるところにその意図をしっかりと感じる事ができ、とても共感しました。講演を聞いて「おかしい」許せない」と感じる自分の気持ちに素直にとりくむことが、周りに広げていく一番の近道なのかなと感じました。

核兵器禁止条約国連会議に欠席したり、アメリカのシリア攻撃をすぐに「理解できる」と表明したり、安倍政権の日々の言動にとっても不安を感じます。共謀罪も国会で審議が始まりました。今声を上げなければ、声を上げるだけでなくこの動きをくい止めなくては、と思います。そのためにもおかやまいっぽんをもっと大きく影響力のある組織にしていきたい。私にできることで頑張ろうと思います。

池橋陽子



次の新聞送付作業は5月1日（月）午後1時半から民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

林田和
小曾内
竹内製
竹内坪井